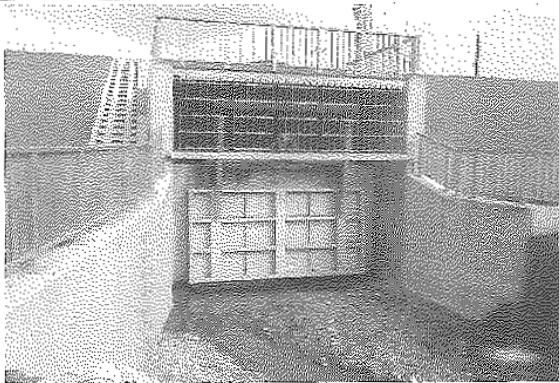


当会会員の旭イノベックス(株) (札幌市) が、
平成29年11月2日(木)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

津波対策ゲート提案加速

旭イノベックス、行政に照準

【札幌】旭イノベックス(札幌市清田区、星野恭亮社長、011・883・8400)は、海と川の河口部での津波対策向けとして、独自の「無動力自動開閉樋門ゲート(オートゲート)」を写真



の提案を本格化させる。千葉県の海匠土木事務所が管理する場所に設置工事をしており、2017年度中にも完成する予定。こうした実績を生かすとともに、販促ツールも用意するなど訴求を強化させる考えだ。

オートゲートは、河川から農業用水を取水・排水するために使われる樋門として、水位差を利用して無動力で自動開閉し、洪水などの被害から守る製品。電気などの動力

が必要なく、無人で操作できるほか、門柱が必要な引き上げ式に比べ、建設費や維持管理コストを低減できるという。

この技術を活用した河口部向けオートゲートを千葉県の大湊川と玉浦川の河口部に建設する計画だ。矢挿川で

は幅4・5メートル×高さ2・7メートルの門を四つ設けるほか、玉浦川では、幅3・5メートル×高さ2メートルの門を予定する。一部の門も想定する。この実績を生かし、東日本大震災の被災地域である東北の太平洋側など全国への展開を目指す。今後、模型や、製品情報をまとめたパンフレットとCDも用いて、各地域の行政を中心に提案していく。

旭イノベックスはオートゲートを手がける土木鉄構事業部のほか、建築鉄構事業部、住環境機器事業部で構成する。建築鉄構事業部ではITを活用した生産体制を進めていくほか、住環境機器事業部では冷暖房パネルの生産効率化も図る。17年3月期の売上高は103億円。オートゲートは13年の第5回ものづくり日本大賞(内閣総理大臣賞)を受賞している。

旭イノベックスはオートゲートを手がける土木鉄構事業部のほか、建築鉄構事業部、住環境機器事業部で構成する。建築鉄構事業部ではITを活用した生産体制を進めていくほか、住環境機器事業部では冷暖房パネルの生産効率化も図る。17年3月期の売上高は103億円。オートゲートは13年の第5回ものづくり日本大賞(内閣総理大臣賞)を受賞している。